

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
令和元年度 分担研究報告書
難治性腎障害に関する調査研究

岡田 浩一 埼玉医科大学・腎臓内科学
安田 宣成 名古屋大学・腎臓内科学
藤元 昭一 宮崎大学医学部医学科血液・血管先端医療学講座/腎臓内科
要 伸也 杏林大学・第一内科学
柴垣 有吾 聖マリアンナ医科大学・腎臓内科学
土谷 健 東京女子医科大学・腎臓内科学

研究要旨

2016年に改訂された難治性腎疾患（IgA腎症、急速進行性腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎）の診療ガイドラインの普及および遵守状況と診療実態の標準化を評価しつつ、より効果的な運用方法を明らかとする。また最新エビデンスの収集とシステマティックレビュー、海外ガイドラインとの比較、日本人データの検証を通じて2017年版ガイドラインの改訂を行い、2020年版を発表する。

A．研究目的

本研究課題が重点的に対象としてきた4疾患（IgA腎症、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎）は、エビデンスに基づく診療ガイドラインが公表されているが、医療者・患者への周知と普及、腎予後、生命予後の改善に結びつく効果的な運用の実践には課題が残されている。腎疾患登録システム（J-RBR/J-KDR）を有効に活用し、この課題の解決を目指す。診療ガイドラインの普及を行い、エビデンスの蓄積とともに診断基準・重症度分類・治療指針の検証（日本人の臨床データの収集と諸外国のガイドラインとの比較を含む）を通じて、診療ガイドラインの改訂を行う。

B．研究方法

今までの4疾患に関するガイドラインを改訂するため、体制整備と情報収集を進める。なお下記の各疾患の担当者を研究分担者とする。IgA腎症（藤元昭一）RPGN（要伸也）ネフローゼ症候群（柴垣有吾）多発性嚢胞腎（土谷健）。研究協力者として腎臓専門医に加え、各作成WG

には非専門家や患者などのパネリストを加え、必要最小限に厳選したPICOとクリニカルクエッション（CQ）を策定する。またSRに適さないCQについてはテキスト形式による記述とする。

2016年に改訂され、2017年に出版された難治性腎疾患の診療ガイドラインの普及状況を調査し、ガイドラインの課題および取り上げるべきテーマを洗い出すため、腎臓専門医および患者を対象としたアンケートを実施する。

日本腎臓学会の協力のもとに、学術委員会の下部組織としてシステマティックレビュー（SR）チームを若手学会員より組織する。GRADEシステムに関する勉強会を実施し、エキスパートに育成する。

SRチームを中心にまずはエビデンスの収集をハンドサーチにより実施する。収集されたエビデンスをGRADEシステムに沿って、SRを実施する。

エビデンスをもとに、腎臓専門医お

よび非専門医、パラメディカルや患者代表からなる推奨作成パネルが益と害のバランスに配慮しつつ推奨を策定する。

2017年版ガイドラインの内容をアップデートしつつ、CQに取り上げられなかった内容を含むテキスト部分を記述する。その際、本研究班の疫学分科会の最新の成果やアンケート結果を取り入れる。

パブリックコメントや関連学会による査読結果をもとに改訂版ガイドラインを完成する。

(倫理面への配慮)

既に公開もしくはDB収録されている論文やデータの調査であり、倫理面での問題はない。

C. 研究結果

各WGのメンバーおよび策定されたCQとその推奨・要約は以下の通りである。冊子体ガイドラインは2020年6月に上梓の予定である。

IgA腎症ワーキンググループ

研究分担者：藤元昭一(宮崎大学腎臓内科)

研究協力者：鈴木祐介、鈴木仁(順天堂大学腎臓内科)、小畑陽子(長崎大学腎臓内科)、小池健太郎、清水昭博(慈恵会医科大学腎・高血圧内科)、福田顕弘(大分大学腎臓内科)、市川大介(聖マリアンナ医科大学腎臓内科)、小松弘幸(宮崎大学腎臓内科)

CQ:

・RA系阻害薬はIgA腎症に推奨されるか？

推奨:

ACE阻害薬またはARBは、IgA腎症の

ESKDへの進展抑制、腎機能障害の進行抑制ならびに尿蛋白の減少効果を有するため、使用するよう推奨する。
要約:

IgA腎症に対するRA系阻害薬は、多くの試験がCKD G1~G4、尿蛋白1.0g/日以上患者を対象としており、尿蛋白減少効果、ESKD進展抑制効果、腎機能低下抑制効果が示されている。正常血圧患者でも尿蛋白減少効果を示した。ただし、尿蛋白0.5g/日未満のIgA腎症患者に対してはRA系阻害薬の有効性は十分に証明されていない。RA系阻害薬は忍容性の高い薬剤であるが、妊婦または妊娠している可能性のある女性には禁忌である。

・副腎皮質ステロイド薬はIgA腎症に推奨されるか？

推奨:

IgA腎症における腎機能障害の進行を抑制、尿蛋白減少効果が期待できるため、副腎皮質ステロイド薬の使用を推奨する。

要約:

IgA腎症に対する副腎皮質ステロイド薬の有効性を検討したランダム化並行群間比較試験(RCT)は、その大半が尿蛋白1.0g/日、CKDステージG1~2のIgA腎症患者を対象としており、その中で副腎皮質ステロイド薬の腎機能低下抑制、蛋白尿改善効果が示されている。しかし、G3以下の腎機能や尿蛋白1g/日以下を対象とした検討はごく少数であり、治療効果を検討するには不十分である。またステロイドパルス療法の腎機能障害の進行抑制に関する検討は少なく、また高用量経口ステロイド療法とステロイドパルス療法を比較したRCTはな

いため、検証が必要である。

急速進行性糸球体腎炎ワーキンググループ

研究分担者：要 伸也（杏林大学腎臓内科）

研究協力者：廣村桂樹（群馬大学腎臓・リウマチ内科） 臼井丈一（筑波大学腎臓内科） 尾田高志（東京医科大学八王子医療センター腎臓内科） 佐田憲映（岡山大学腎・免疫・内分泌代謝内科） 板橋美津世（東京都健康長寿医療センター腎臓内科・血液透析科） 平橋淳一（慶應義塾大学血液浄化・透析センター） 川口隆久（慶應義塾大学腎臓・内分泌・代謝内科） 宮脇義亜（岡山大学腎・免疫・内分泌代謝内科）

CQ:

・ ANCA 関連 RPGN の初期治療として免疫抑制薬の追加は推奨されるか？

推奨：

ANCA 関連 RPGN の初期治療では、経口シクロホスファミド(POCY)よりも、静注シクロフォスファミドパルス(IVCY)を提案する。

解説：

腎症を有する AAV において IVCY を PO CY と最終観察時において比較した場合、重篤合併症や重篤感染症といった重大アウトカムにおいて優れるが、最も重大なアウトカムである腎死率や重要アウトカムである再燃率において劣るという結果であった。いずれの報告においても、両群間で CS の総投与量に有意差はないが、CY の総投与量は PO CY の方が IVCY のほぼ倍量となっていることが、これらのアウトカムの違いに影響している可能性が考えられる。

・ ANCA 関連 RPGN の初期治療における CS の併用薬として RTX と CY のいずれが推奨されるか？

推奨：

ANCA 関連 RPGN の初期治療では、CS の併用薬として RTX よりも、CY を提案する。CY が使用しづらい場合や、RTX の使用が適切と判断される場合は、RTX の使用を提案する。

解説：

RITUXVAS 試験、RAVE post-hoc 試験のメタ解析では、両群間で有効性、安全性に有意差はみられなかったが、両試験とわが国の患者像の相違、わが国のこれまでの臨床成績や使用経験などを勘案して、「ANCA 関連 RPGN の初期治療では、CS の併用薬として CY を提案する」とした。一方で、CY に対して重篤な過敏症の既往がある場合、累積投与量が多くなり性腺毒性や二次発癌の懸念がある場合など、CY を使用しづらい時には RTX が有用と考えられる。

・ ANCA 関連 RPGN の初期治療として血漿交換療法は推奨されるか？

推奨：

高度な腎不全を伴う ANCA 関連 RPGN の初期治療では、CS + CY の追加治療として、mPSL パルスよりも PE を提案する

高度な腎不全を伴う ANCA 関連 RPGN の初期治療では、CS + CY よりも、CS + CY に PE の併用を提案する

解説：

「重大」なアウトカムである末期腎不全において、治療開始 3 ヶ月および 12 ヶ月における PE 併用の優位性を認めた（3 ヶ月：RR 0.46、95%CI 0.24 ~ 0.86、12 ヶ月：RR 0.44、95%CI 0.22

~0.85)。一方で死亡、再燃、重篤合併症ならびに重篤感染症の発現において、PE 併用の優位性を認めなかった。以上から、高度な腎不全を伴う ANCA 関連 RPGN において、mPSL パルス療法と比較し PE の併用は 12 ヶ月までの末期腎不全を減少させる可能性があるかと判断した。

短期的な腎予後の改善にとどまるとしても患者側の価値観・優先度が高い可能性がある。また医療資源面においても、透析回避におけるコスト削減の効果は大きい。ANCA 陽性 RPGN では PE が保険適応となっている現状も踏まえ、高度な腎不全を伴う ANCA 陽性 RPGN では透析回避、透析開始を遅延させるため PE の併用は提案されるものと考えた。

・ANCA 関連 RPGN の寛解維持療法において(ステロイドの併用薬として)RTX と AZA のいずれが推奨されるか？

推奨：

寛解導入された ANCA 関連 RPGN の維持療法として、CS+AZA よりも CS+RTX の使用を提案する。

要約：

ANCA 関連 RPGN の寛解維持療法は、再燃予防および日和見感染の合併症対策を加味して行う必要がある。CS にアザチオプリン(AZA)を併用する治療は、寛解維持療法として欧米では標準治療として認められてきたものであるが、2014 年、2018 年の新たな大規模臨床試験の報告により、死亡率と再燃率において、リツキシマブ(RTX)の併用療法が AZA の併用療法に対して優位性があることが示された。

ネフローゼ症候群ワーキンググループ

研究分担者：柴垣有吾(聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科)

研究協力者：和田健彦(東海大学腎代謝内科)、石本卓嗣(名古屋大学腎臓内科)、栗田宜明(福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター)、清水さやか(京都大学医療疫学)、白井小百合(聖マリアンナ医科大学腎臓高血圧内科)、中屋来哉(岩手県立中央病院腎臓内科)、新畑覚也(厚生労働省)、西脇宏樹(昭和大学藤が丘病院腎臓内科)、長谷川みどり(藤田保健衛生大学腎臓内科)、横山仁(金沢医科大学腎臓内科)

CQ:

・成人の微小変化型ネフローゼ症候群の再発例において、推奨される治療は何か？

推奨：

成人の微小変化型ネフローゼ症候群の再発患者において、ステロイド単剤よりもシクロスポリンを併用することを提案する。

解説：

MCNS は寛解後のステロイド減量や漸減中止に伴う再発率は 30~70%と高頻度であるため、MCNS の再発時に対する治療はステロイドを漫然と使用することを予防する点からも临床上重要な課題と考えられる。本システムティックレビューの結果、シクロスポリンの併用は、6 ヶ月後のネフローゼ症候群の再発は相対効果 (RR) 0.83 (95%信頼区間 (CI) 0.29~2.39)、1 か月後のネフローゼ症候群の寛解は RR 1.25 (95%CI 1.00~1.56) であり、統計学的に有意ではなかったが、点推

定値はいずれも望ましい効果をもたらす方向であった。

・成人の巣状分節性糸球体硬化症でステロイド抵抗性の患者において、免疫抑制薬は推奨されるか？

推奨：

成人のステロイド抵抗性の巣状分節性糸球体硬化症において、ステロイドにシクロスポリンを併用することを提案する

成人のステロイド抵抗性の巣状分節性糸球体硬化症において、ミコフェノール酸 モフェチルおよび高用量デキサメタゾン併用することを提案する

要約：

成人のステロイド抵抗性巣状分節性糸球体硬化症に対して、ステロイドにシクロスポリンを併用することは寛解導入に有効であり、腎死を抑制する効果が報告されている。また、ミコフェノール酸モフェチルおよび高用量デキサメタゾン併用することは、寛解導入に有効である。

・成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症に、推奨される治療はなにか？

推奨：

成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、支持療法単独よりもシクロfosファミドとステロイドの併用を提案する。

成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、支持療法単独よりもミゾリピンとステロイドの併用を提案する。

成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、支持療法単独

よりもタクロリムスとステロイドの併用を提案する。

成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、支持療法単独よりもクロラムブシルとステロイドの併用を

成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、支持療法単独よりもACTHによる治療を提案する。

解説：

システマティックレビューをまとめると、成人のネフローゼ症候群を呈する一次性膜性腎症において、全死亡・感染症・腎機能低下に影響を与える薬剤は認められなかったが、クロラムブシルによる治療は支持療法単独群と比較して有意に腎死(透析・移植)を減らす効果が認められた。シクロfosファミド・ミゾリピン・タクロリムスとステロイドの併用、もしくはACTHによる治療は支持療法単独群と比較して寛解(完全寛解・不完全寛解)を有意に減少させると結論付けた。

今回の推奨文はステロイド単剤療法もしくはシクロスポリンとステロイドの併用療法が全く無効であることを示した結果ではない。ステロイド単剤療法もしくはシクロスポリンとステロイドの併用療法は実際に我が国では現在標準治療として行われている治療であり、有効例も多く見受けられる。今回のネットワークメタ解析に用いた文献の多くは海外のプラクティスを報告したものである。我が国の実情を含んだ解析とするためには、薬剤の副作用やQoLも含めて、特に日本人を対象とした中長期的な観察期間を設定した研究が望まれる。今回の推奨結果は、副作用や治療のしやすさ等を勘案しての個別化医療の中でこれ

らの従来治療を行うことを否定するものではない。

・成人のネフローゼ症候群における特発性膜性腎症の診断に、PLA2R の測定は推奨されるか？

推奨：

成人ネフローゼ症候群患者において特発性膜性腎症の診断のための抗 PLA2R 抗体の測定は、腎生検の実施が難しい場合には測定してもよい。

解説：

システマティックレビューの結果、3 件の論文が評価対象となった。1 つは症例対照研究であり、1 つはコホート研究、1 つは詳細不明であった。ネフローゼ症候群と限定されていない研究も含まれ、対象者数は計 344 人であった。腎生検を踏まえた最終的な臨床診断による特発性膜性腎症を基準とすると、抗 PLA2R 抗体の感度、特異度は、それぞれ、0.77(95%CI 0.61-0.88)、0.95(0.87-0.98)、陽性尤度比、陰性尤度比はそれぞれ、15.4、0.24 であった。

多発性嚢胞腎ワーキンググループ

研究分担者：土谷 建(東京女子医科大学腎臓内科)

研究協力者：西尾妙織、川島圭介(北海道大学病院内科)、石川英二(三重大学腎臓内科・血液浄化療法部)、金子佳賢(新潟大学腎・膠原病内科)、林 宏樹(藤田保健衛生大学・腎内科学)、本田謙次郎、石本遊(東京大学腎臓内分泌内科)、三戸部倫大(竹田総合病院腎臓内科)、中西浩一(琉球大学育成医学(小児科))、市川大介(聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科)

CQ:

・PKD 患者のトルバプタン治療は腎機能低下抑制に有効か？

推奨：

急速に進行するもしくは急速な進行が予想される成人 ADPKD 患者に対し、利尿にともなう有害事象に留意し、肝機能障害をモニターした上で、腎機能低下の抑制を目的としたトルバプタン治療を推奨する。

・高血圧を伴う多発性嚢胞腎患者に RA 系阻害薬は推奨されるか？

推奨：

ACE 阻害薬もしくは ARB は高血圧を伴う ADPKD の末期腎不全への進展抑制効果および蛋白尿抑制効果が期待できるため、その使用を提案する。

・高血圧を伴う PKD 患者への降圧治療は腎機能低下抑制に有効か？

推奨：

厳格な降圧療法は ADPKD のアルブミン尿、左心肥大、腎容積増大を改善する効果が期待できるが、ふらつきなど副作用の頻度が高いため、50 歳未満で腎機能が eGFR60ml/分/1.73m² 以上かつ降圧療法に忍容性がある ADPKD 患者に限って、厳格な降圧療法を実施することを提案する。

・PKD 患者の腎嚢胞感染にフルオロキノロン系抗菌薬は有効か？

推奨：

ニューキノロン系抗菌薬は ADPKD の嚢胞感染治療に有効である可能性があり、推奨される

・PKD 患者に対する脳動脈瘤のスクリーニングは推奨されるか？

推奨：

脳動脈瘤のスクリーニングによる全死亡率の低下および脳動脈瘤破裂の予防を支持するエビデンスはないが、本邦における脳動脈瘤破裂率が高い可能性も踏まえ、単純 MR アンギオグラフィによるスクリーニングの実施を提案する。特に家族歴のある場合には推奨する。

D．考察

2020 年版のガイドライン改定では、SR に値するエビデンスの集積した CQ に厳選し、それらに関しては独立した SR チームにより GRADE 様式に沿った厳格な SR を実施した。その結果から導き出される推奨の作成においては、腎臓専門医だけでなく、他領域の専門家、利用者、患者代表などからなる推奨作成パネルが、益と害を吟味しつつ推奨を策定した。ただしその結果が日本の医療の実情にそぐわない場合には、推奨以外の治療アルゴリズムや解説の部分で配慮した。今回 SR に適さないために取り下げた CQ の中には、臨床現場で必要とされるものは多く、それらについては既存のエビデンスに加えて、疫学分科会の最新の成果およびエキスパートオピニオンやアンケート結果を適宜採用しつつ、テキスト部分に記載することとし、それらが網羅されるようにした。なお、新たな難病医療提供体制として、厚生労働省難病対策課長通知「都道府県における地域の実情に応じた難病の医療提供体制の構築について」(平成 29 年 4 月 14 日)では、各都道府県単位で難病診療連携拠点病院の指定、難病診療分野別拠点病院、難病医療協力病院等の指定を行い、難病コーディネーターを配置することを通知した。そして、この体制においてそれぞれの難病毎に拠点病院等への紹介基準などを、診療ガイドライン内に記載することを推奨している。この点について、本研究班でも議論を重ねた。そもそもこの難病医療提供体制は、診断・療養が困難な稀少神経難病などを主に想定したものであり、一方本ガイドラインが対象とする腎臓病 4 疾患に関

しては、診断そのものは専門医であれば比較的容易であること、難治例については日頃からの医療連携の中で対処するものであり、特に全国一律の紹介基準というものは設定しがたいのが現状であることから、特別な記載は行わない方針とした。

E．結論

専門医および専門医不在の地域における非専門医による難治性腎疾患の診療をサポートするガイドラインの完全改訂版を作成した。その際、最新のエビデンスに加え、2017 年版ガイドラインの普及・遵守状況および利用者の意見、海外ガイドラインとの比較および本研究班疫学分科会の調査による日本の診療実態を反映させた改訂を行った。本ガイドラインの普及により難治性腎疾患の標準化を通して、患者予後の改善を期待する。

G．研究発表

1．論文発表

1. Inoue T, Luo Y, Seto T, Suzuki H, Okada H. Glomerular solidification is associated with nephritis-related clinical parameters in IgA nephropathy. *Renal Failure* 2019, 41, 893-898
2. Niihata K, Nishiwaki H, Kurita N, Okada H, Maruyama S, Narita I, Shibagaki Y, Nakaya I. Variations in actual practice patterns and their deviations from the clinical practice guidelines for nephrotic syndrome in Japan: certified nephrologists' questionnaire survey. *Clin Exp Nephrol* 2019, 23, 1288-1297
3. Sueyoshi K, Watanabe Y, Inoue T, Ohno Y, Nakajima H, Okada H. Predictors of long-term prognosis in acute kidney injury survivors who require continuous renal replacement therapy after cardiovascular surgery. *PLoS One* 2019, 14, e0211429

4. Sugiyama K, Inoue T, Kozawa E, Ishikawa M, Shimada A, Kobayashi N, Tanaka J, Okada H. Reduced oxygenation but not fibrosis defined by functional magnetic resonance imaging predicts the long-term progression of chronic kidney disease. **Nephrol Dial Transplant** [Epub ahead of print]
5. Amano H, Ohno Y, Inoue T, Tomori K, Ohama K, Okada H. Regional prescription surveillance of phosphate binders in the western Saitama area: the substantial role of ferric citrate hydrate in improving serum phosphorus levels and erythropoiesis. **Clin Exp Nephrol** 2019, 23, 841-851
6. Kato H, Miyakawa Y, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Okada H. Safety and effectiveness of eculizumab for adult patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. **Clin Exp Nephrol** 2019, 23, 65-75
7. Ito S, Hidaka Y, Inoue N, Kaname S, Kato H, Matsumoto M, Miyakawa Y, Mizuno M, Okada H, Shimono A, Matsuda T, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Kagami S. Safety and effectiveness of eculizumab for pediatric patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. **Clin Exp Nephrol** 2019, 23, 112-121
8. Akimoto Y, Yan K, Miura Y, Tsumoto H, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Kudo A, Arai T, Chiba Y, Kaname S, et al. O-GlcN acylation and phosphorylation of α -actinin serine199 in diabetic nephropathy. **Am J Physiol Renal Physiology** 317:1359-1374
9. Ito S, Hidaka Y, Inoue N, Kaname S, Kato H, Matsumoto M, Miyakawa Y, Mizuno M, Okada H, Shimono A, Matsuda T, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Kagami S. Safety and effectiveness of eculizumab for pediatric patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. **Clin Exp Nephrol** 23:112-121
10. Higashihara E, Yamamoto K, Kaname S, Okegawa T, Tanbo M, Yamaguchi T, Shigemori K, Miyazaki I, Yokoyama K, Nutahara K. Age- and height-adjusted total kidney volume growth rate in autosomal dominant polycystic kidney diseases. **Clin Exp Nephrol** 23:100-111
11. Fukuoka K, Miyamoto A, Ozawa Y, Ikegaya N, Maesono T, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y. Adult-onset Still's disease-like manifestation accompanying cancer recurrence after long-term remission. **Mod Rheumatol** 29:704-707
12. Kato H, Miyakawa Y, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Okada H. Safety and effectiveness of eculizumab for adult patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. **Clin Exp Nephrol** 23:65-75
13. Isobe M, Amano K, Arimura Y, Ishizu A, Ito S, Kaname S, et al.; JCS Joint Working Group. JCS2017 Guideline for Management of Vasculitis Syndrome. **Circulation** 135:J84299-359
14. Yuki Yokoe, Naotake Tsuboi, Takahiro Imaizumi, Akimitsu Kitagawa, Munetoshi Karasawa, Takaya Ozeki, Nobuhide Endo, Yuriko Sawa, Sawako Kato, Takayuki Katsuno, Shoichi Maruyama, and Japan Research Committee of the Ministry of Health,

- Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis and for Intractable Renal Disease; Kunihiro Yamagata, Joichi Usui, Michio Nagata, Ken-ei Sada, Hitoshi Sugiyama, Koichi Amano, Yoshihiro Arimura, Tatsuya Atsumi, Yukio Yuzawa, Hiroaki Dobashi, Yoshinari Takasaki, Masayoshi Harigai, Hitoshi Hasegawa, Hirofumi Makino, Seiichi Matsuo Clinical Impact of Urinary CD11b and CD163 on the Renal Outcomes of Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Glomerulonephritis Nephrol Dial Transplant in press
15. Joichi Usui, Hirayasu Kai, Shuzo Kaneko, Mayumi Takahashi-Kobayashi, Masahiro Hagiwara, Kazuhiro Takahashi, Tatsuya Oda, Kunihiro Yamagata Kidney transplant patient with immunoglobulin A nephropathy subsequently diagnosed as concurrent autosomal dominant polycystic kidney disease during 17-year follow-up CEN Case Rep in press
 16. Joichi Usui, Mourhege Al-Saloum, Alla Goldberg, Sheng Kuo, Steven P Salvatore, Surya V Seshan Membranoproliferative glomerulonephritis following tubulointerstitial nephritis is a late manifestation of IgG4-related kidney disease: a distinctive case Hum Pathol CR18200331
 17. Reimi Nishida, Shuzo Kaneko, Joichi Usui, Tetsuya Kawamura, Ryoya Tsunoda, Takashi Tawara, Akiko Fujita, Kei Nagai, Hirayasu Kai, Naoki Morito, Chie Saito, Kunihiro Yamagata Plasma exchange is highly effective for ANCA-associated vasculitis patients with rapidly progressive glomerulonephritis who have advanced to dialysis dependence: A single-center case series Ther Apher Dial 23(3)253-260
 18. Aika Suzuki, Susumu Sakamoto, Atsuko Kurosaki, Yasuyuki Kurihara, Keita Satoh, Yusuke Usui, Toshihiro Nanki, Yoshihiro Arimura, Hirofumi Makino, Yasunori Okada, Masayoshi Harigai, Kunihiro Yamagata, Hitoshi Sugiyama, Hiroaki Dobashi, Akihiro Ishizu, Naotake Tsuboi, Joichi Usui, Ken-ei Sada, Sakae Homma, and for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan Chest high-resolution CT findings of microscopic polyangiitis: a Japanese first nationwide prospective cohort study Am J Roentgenol 12131-11
 19. Kunihiro Yamagata, Joichi Usui, Hitoshi Sugiyama, Shoichi Maruyama, Ichiei Narita Temporal change in life and renal prognosis of rapidly progressive glomerulonephritis in Japan via nationwide questionnaire survey Clin Exp Nephrol 23(4)573-575
 20. 高橋真由美、臼井丈一 多発血管炎性肉芽腫症腎と透析 87(2)225-231
 21. 高橋真由美、臼井丈一 間質性腎炎日本臨床 77(4)119-124
 22. 臼井丈一 数週間の経過で進行する腎不全を呈した高齢患者内科 123(4)631-632
 23. Isobe M, Amano K, Arimura Y, Ishizu A, Ito S, Kaname S, Kobayashi S, Komagata Y, Komuro I, Komori K, Takahashi K, Tanemoto K, Hasegawa H, Harigai M, Fujimoto S, Miyazaki T, Miyata T, Yamada H, Yoshida A, Wada T, Inoue Y, Uchida HA, Ota H, Okazaki T, Onimaru M, Kawakami T, Kinouchi R, Kurata A, Kosuge H, Sada KE, Shigematsu K, Suematsu E, Sueyoshi E, Sugihara T, Sugiyama H, Takeno M, Tamura N, Tsutsumino M, Dobashi H, Nakaoka Y, Nagasaka K, Maejima Y, Yoshifuji H, Watanabe Y, Ozaki S, Kimura T, Shigematsu H, Yamauchi-Takahara K,

- Murohara T, Momomura SI; JCS Joint Working Group. JCS 2017 Guideline on Management of Vasculitis Syndrome - Digest Version. *Circ J.* 84(2)299-359
24. Watanabe H, Sada KE, Matsumoto Y, Harigai M, Amano K, Fujimoto S, Dobashi H, Yuzawa Y, Yamagata K, Muso E, Arimura Y, Makino H. Rationale of concomitant cyclophosphamide for remission-induction in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: A propensity score-matched analysis of two nationwide prospective cohort studies. *Mod Rheumatol.* 1-9
 25. Morishita M, Sada KE, Matsumoto Y, Hayashi K, Asano Y, Hiramatsu Asano S, Ohashi K, Miyawaki Y, Katsuyama E, Watanabe H, Kawabata T, Wada J. Risk factors for cytomegalovirus infection in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *PLoS One.* 14e0218705
 26. Namba N, Kawasaki A, Sada KE, Hirano F, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Shimada K, Hashimoto A, Matsui T, Nagasaka K, Sugihara T, Suzuki A, Yamagata K, Sumida T, Tohma S, Homma S, Ozaki S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N; Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS). Association of MUC5B promoter polymorphism with interstitial lung disease in myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Ann Rheum Dis.* 78(8)1144-1146
 27. Yamagata K, Usui J, Nagata M, Sugiyama H, Sada KE, Muso E, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Kobayashi M, Saito T, Ito T, Hirawa N, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Arimura Y, Makino H, Matsuo S; Research Committee of Intractable Renal Disease and the Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan. Histopathological classification of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis in a nationwide Japanese prospective 2-year follow-up cohort study. *Clin Exp Nephrol.* 23(3)387-394
 28. Ohya M, Iwashita Y, Kunitomo S, Yamamoto S, Mima T, Negi S, Shigematsu T. Analysis of medication adherence and patient preference in long-term stable maintenance hemodialysis patients in Japan. *Intern Med.* 15;58(18)2595-2603
 29. Miyamoto K, Kawazoe Y, Negi S, Shibata N, Ogawa A, Shima N, Kunitatsu K, Shima Y, Yamamoto N, Kaneko M, Kida M, Tanaka M, Ohya M, Shigematsu T, Kato S. Effect of prolonged direct hemoperfusion using a polymyxin B immobilized fiber cartridge on interleukin-6 concentration in patients with septic shock: a prospective exploratory trial. *Renal Replacement Therapy* 520
 30. 重松隆, 大矢昌樹 日本発工ボカルセトの治療成績総括-世界への発信 -XXVI66-75
 31. 河上和紀, 大矢昌樹, 重松隆【血管石灰化の治療】29(2)231-236
 32. 大矢昌樹 各診療科における高尿酸血症の診療の重要性 腎臓内科の立場から 4313
 33. 大矢昌樹, 園生智広, 河上和紀, 屋代充, 重松隆【特集 軟部組織の石灰化-血管と心臓弁】1. 骨と血管の関連性 32(4)253-258
 34. Yashiro M, Ohya M, Mima T, Kawakami K, Sonou T, Tanaka Y, Yano T, Kobayashi S, Yamamoto S, Negi S, Shigematsu

- T.Active vitamin D and vitamin analogus stimulate Fibroblast Growth Factor 23 production in osteocyte-like cells via vitamin D receptorJournal of pharmaceutical and biological analysis in press
35. Higashiura M, Ohya M, Tanaka Y, Yamamoto S, Mima T, Negi S, Shigematsu T. Correlation between haemoglobin level and type of erythropoiesis-stimulating agent at initiation of haemodialysisInt J of Clin Phamin press
 36. Yashiro M, Ohya M, Mima T, Kawakami K, Sonou T, Tanaka Y, Yano T, Kobayashi S, Yamamoto S, Negi S, Shigematsu T. Excessive ADAM17 activation occurs in uremic patients and may contribute to their immunocompromised status immun Inflamm Disin press
 37. 平橋 淳一【NETsにまつわる様々な病態】NETsに対する治療戦略Thrombosis Medicine 9巻4号325-332
 38. 平橋 淳一【IgA腎症-診断・治療の最新動向-】IgA腎症の治療学 n-3多価不飽和脂肪酸 日本臨床 77巻4号703-710
 39. 大久保 光修、平橋 淳一 腎泌尿器疾患の災害医療 圧挫症候群における腎障害のメカニズム、2019.腎臓内科・泌尿器科 10巻3号260-265
 40. 平橋 淳一横紋筋融解症による急性腎障害発症の新たなメカニズム医学のあゆみ 268巻7号587-588
 41. 平橋 淳一【死細胞由来分子が巻き起こす炎症病態】急性腎障害におけるMETsの関与とその制御炎症と免疫 27巻4号284-288
 42. 大久保光修、平橋 淳一【全身性疾患と腎 update】(第9章)その他 横紋筋融解症・腎臓専門医の視点より腎と透析 86巻増刊 491-493
 43. Tanaka M, Kinoshita-Daitoku R, Kiga K, Sanada T, Zhu B, Okano T, Aikawa C, Iida T, Ogura Y, Hayashi T, Okubo K, Kurosawa M, Hirahashi J, Suzuki T, Nakagawa I, Nangaku M, Mimuro H. Group A Streptococcus establishes pharynx infection by degrading the deoxyribonucleic acid of neutrophil extracellular traps.Sci Rep10(1)3251
 44. Yamagata K, Usui J, Nagata M, Sugiyama H, Sada KE, Muso E, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Kobayashi M, Saito T, Ito T, Hirawa N, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Arimura Y, Makino H, Matsuo S; Research Committee of Intractable Renal Disease and the Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan. Essential points from Evidence-based Clinical Practice Guidelines for Chronic Kidney Disease 2018. Clin Exp Nephrol. 23(1)1~15
 45. Yamagata K, Hirahashi J et al. Histopathological classification of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis in a nationwide Japanese prospective 2-year follow-up cohort study. Research Committee of Intractable Renal Disease and the Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan. Clin Exp Nephrol23(3)387-394
 46. 北川清樹,和田隆志血漿交換療法の適応と現状. 日本医師会雑誌 148(3)447-451
 47. Tran TTT, Hara A, Kitagawa K, Kitajima S, Toyama T, Iwata Y, Sakai N, Shimizu M, Kaneko S, Furuichi K, Wada T. Relationship between autoantibodies to erythropoietin receptor and renal outcome in patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Biomarkers.25(2)194-200

48. 廣村桂樹【Rheumatological emergencyの診断と治療】急速進行性糸球体腎炎リウマチ科 62154-161
49. 廣村桂樹【全身性疾患と腎 update】(第1章)膠原病、血管炎、自己免疫疾患 全身性エリテマトーデス・腎臓専門医の視点より陣と透析 8614-17
50. 坂入徹, 廣村桂樹【腎疾患の新規治療薬】腎疾患に対する新規免疫抑制薬日腎会誌 61507-514
51. 池内秀和, 廣村桂樹, 他【腎臓病のエンドポイント】ループス腎炎のエンドポイント医学のあゆみ 269531-535
52. 廣村桂樹, 池内秀和, 他日本腎生検レジストリー(J-RBR)からみた、わが国のループス腎炎の実態腎臓内科・泌尿器科 9297-303
53. Hoshino A, Hiromura K, et al. A relapsing case of pulmonary-renal syndrome after a sequential rise in MPO-ANCA and anti-GBM antibodies. *CEN Case Rep* 8221-225
54. Sakairi T, Hiromura K, et al. Hypertrophic pachymeningitis associated with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a case series of 15 patients. *Scand J Rheumatol* 48218-224
55. Takei Y, Hiromura K, et al. Urinary Activin A is a novel biomarker reflecting renal inflammation and tubular damage in ANCA-associated vasculitis. *PLoS one* 14e02237031.
56. Yano K, Suzuki H, Oda T, Ueda Y, Tsukamoto T, Muso E Crescentic poststreptococcal acute glomerulonephritis accompanied by small vessel vasculitis: case report of an elderly male. *BMC Nephrol.* 18;20(1)4711.
57. Hotta O, Oda T The epipharynx-kidney axis triggers glomerular vasculitis in immunoglobulin A nephropathy. *Immunol Res.* 67(4-5)304-3091.
58. Hirano D, Oda T, Ito A, Yamada A, Kakegawa D, Miwa S, Umeda C, Takemasa Y, Tokunaga A, Wajima T, Nakaminami H, Noguchi N, Ida H Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase of *Mycoplasma pneumoniae* induces infection-related glomerulonephritis. *Clin Nephrol.* 92(5)263-2721.
59. Hotta O, Tanaka A, Oda T Chronic epipharyngitis: A missing background of IgA nephropathy. *Autoimmun Rev.* 18(8)835-8361.
60. Uchida T, Ito S, Kumagai H, Oda T, Nakashima H, Seki S Roles of Natural Killer T Cells and Natural Killer Cells in Kidney Injury. *Int J Mol Sci.* 20;20(10)pii: E24871.
61. Kojima T, Hirose G, Komatsu S, Oshima T, Sugisaki K, Tomiyasu T, Yoshikawa N, Yamada M, Oda T Development of anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis during the course of IgA nephropathy: a case report. *BMC Nephrol.* 25;20(1)25
62. 今野 理, 佐口 徹, 沖原 正章, 横山 卓剛, 木原 優, 赤司 勲, 中村 有紀, 河地 茂行, 岩本 整, 尾田 高志腎移植後リンパ漏に対してリンパ管造影が有効であった2症例. 日本臨床腎移植学会雑誌 7巻2号 197-200
63. 韓 蔚, 鈴木 智, 仲田 真由美, 渡邊 詩香, 市川 大介, 小池 淳樹, 尾田 高志, 鈴木 仁光学顕微鏡所見、蛍光抗体法で多彩な像を呈した感染関連IgA腎症と考えた1例. 腎炎症例研究 35巻 72-85
64. Takehiko Kawaguchi, Tasuku Nagasawa, Kazuhiko Tsuruya, Kenichiro Miura, Takayuki Katsuno, Takashi Morikawa, Eiji Ishikawa, Masao Ogura, Hideki Matsumura, Ryota Kurayama, Shinsuke Matsumoto, Yuhji Marui, Shigeo Hara, Shoichi Maruyama, Ichiei Narita, Hirokazu Okada, Yoshifumi Ubara, and the Committee of Practical Guide for Kidney Biopsy 2019. A Nationwide Survey on Clinical Practice Patterns

- and Bleeding Complications of Percutaneous Native Kidney Biopsy in Japan *Clinical and Experimental Nephrology*
65. Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Shirasaki A, Nagai K, Yamagata K, Hasegawa H, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Nishino T, Sobajima H, Tanaka S, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Ishimura E, Kazama JJ, Hiromura K, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Suzuki Y, Shibagaki Y, Kitagawa K, Morozumi K, Fujita Y, Mizutani M, Shigematsu T, Kashihara N, Sato H, Matsuo S, Narita I, Isaka Y. Incidence of remission and relapse of proteinuria, end-stage kidney disease, mortality, and major outcomes in primary nephrotic syndrome: the Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clin Exp Nephrol*.
66. Shirai S, Akiyama S, Kamiyo-Ikemori A, Suzuki T, Ichikawa D, Koike J, Kimura K, Shibagaki Y. Membranous nephropathy associated with thrombospondin type-1 domain-containing 7A (THSD7A) in an adult woman with eosinophilia. *CEN Case Rep*. 9(1)65-73.
67. Niihata K, Nishiwaki H, Kurita N, Okada H, Maruyama S, Narita I, Shibagaki Y, Nakaya I. Variations in actual practice patterns and their deviations from the clinical practice guidelines for nephrotic syndrome in Japan: certified nephrologists' questionnaire survey. *Clin Exp Nephrol*. 23(11)1288-1297.
68. Suzuki T, Ushimaru S, Uchida D, Watanabe S, Ichikawa D, Koike J, Mizuguchi H, Kawarazaki H, Shibagaki Y. Refractory THSD7A membranous nephropathy with severe asthma related to eosinophilia. *Clin Nephrol*. 92(2)103-108.
69. 尾関貴哉・丸山彰一成人微小変化型ネフローゼ症候群に対する短期ステロイド治療の可能性医学のあゆみ Vol.272 No.8p661-662
70. 尾関貴哉・丸山彰一腎臓病の分類：形態分類から病因分類へ J-RBR登録項目の改訂について腎と透析 Vol.87 No.4p534-545
71. Masahiro Koizumi Podocyte Injury Augments Intrarenal Angiotensin II Generation and Sodium Retention in a Megalin-Dependent Manner. *Hypertension* 74:509-517
72. Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Mukaiyama H, Sato M, Tanaka Y, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Sako M, Iijima K, Yoshikawa N. Crescentic IgA nephropathy in children. *Pediatr Nephrol* 35. Epub ahead of print
73. Shima Y, Nakanishi K, Sako M, Saito-Oba M, Hamasaki Y, Hataya H, Honda M, Kamei K, Ishikura K, Ito S, Kaito H, Tanaka R, Nozu K, Nakamura H, Ohashi Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC). Lisinopril versus lisinopril and losartan for mild childhood IgA nephropathy: a randomized controlled trial (JSKDC01 study). *Pediatr Nephrol* 34:837-846
74. Shima Y, Nakanishi K, Kaku Y, Ishikura K, Hataya H, Matsuyama T, Honda M, Sako M, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Pediatric IgA Nephropathy Treatment Study

GroupCombination therapy with or without warfarin and dipyridamole for severe childhood IgA nephropathy: an RCTPediatr Nephrol332103-2112

75. Shima Y, Nakanishi K, Sato M, Hama T, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Nozu K, Sako M, Iijima K, Suzuki H, Yoshikawa N IgA nephropathy with presentation of nephrotic syndrome at onset in childrenPediatr Nephrol32457-465
76. Sean J. Barbour, MD, MSc; Rosanna Coppo, MD, FERA; Hong Zhang, MD, PhD; Zhi-Hong Liu, MD; Yusuke Suzuki, MD, PhD; Keiichi Matsuzaki, MD, PhD; Ritsuko Katafuchi, MD, PhD; Lee Er, MSc; Gabriela Espino-Hernandez, MSc; S. Joseph Kim, MD, PhD; Heather N. Reich, MD, PhD; John Feehally, FRCP; Daniel C. Cattran, MD, FRCPC; for the International IgA Nephropathy Network Evaluating a New International Risk-Prediction Tool Evaluating a New International Risk-Prediction Tool in IgA Nephropathy JAMA Intern Med. 179942-952
77. 片淵律子特集：IgA 腎症 診断・治療の最新動向。IV. IgA 腎症の治療学。4. 扁桃摘出術＋ステロイド・パルス療法日本臨床 77679-685
78. 片淵律子特集：今、糸球体疾患を考える 一次性糸球体疾患 IgA 腎症：ステロイド療法の適否腎と透析 86535-540
79. 藤元昭一、福田顕弘特集 IgA 腎症 診断・治療の最新動向。総論。IgA 腎症診療ガイドライン 2017 その特色。日本臨床 77598-605
80. Shinya Nakatani, Eiji Ishimura et, al. Long-Term Effects of High-Dose Tolvaptan for Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease Patients. Case Rep Nephrol Dial 10:9-17:2020
81. Muto S, Ando M, Nishio S, Hanaoka K, Ubara Y, Narita I, Kamura K, Mochizuki T, Tsuchiya K, Tsuruya K, Horie S. The relationship between liver cyst volume and QOL in Japanese ADPKD patients. Clin Exp Nephrol 24:614-322,2020
82. Sakuhara Y, Nishio S, Hattanda F, Soyama T, Takahashi B, Abo D, Mimura H. Initial experience with the use of tris-acryl gelatin microspheres for transcatheter arterial embolization for enlarged polycystic liver. Clin Exp Nephrol 23:825-833.2019
83. Akinari Sekine, Takuya Fujimaru, Junichi Hoshino, Tatsuya Suwabe, Masahiko Oguro, Hiroki Mizuno, Masahiro Kawada, Keiichi Sumida, Rikako Hiramatsu, Eiko Hasegawa, Masayuki Yamanouchi, Noriko Hayami, Shintaro Mandai*, Motoko Chiga, Hiroaki Kikuchi, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Naoki Sawa, Kenmei Takaichi, Yoshifumi Ubara. Genotype-Clinical Correlations in Polycystic Kidney Disease with No Apparent Family History. Am J Nephrol 49:233-240,2019

2 . 学会発表

1. 岡田浩一：腎臓病対策検討会報告書と日本腎臓病協会のミッション、第 62 回日本腎臓学会学術集会・総会、名古屋、2019 年 6 月
2. 岡田浩一：「CKD 診療ガイドライン 2018」の改訂ポイント、第 49 回日本腎臓学会西部学術大会、高知、2019 年 10 月
3. 小野淳、友利浩司、井上勉、岡田浩一：高齢者の血液透析導入後の声明予後を規定する因子について、第 64 回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、2019 年 6 月
4. 要伸也 .腎疾患対策検討会と CKD 患者の重症化予防. 第 32 回日本医工学治療学会 ; 2019 年 ; 東京
5. 要伸也 .腎臓内科医からみた皮膚血管炎. 第 118 回日本皮膚科学会総会 ; 2019 年 .
6. 要伸也 . ANCA 関連腎炎のマネジメント. 第 62 回日本腎臓学会学術総会 ; 2019

- 年；名古屋市
7. 要伸也 .腎臓病療養指導士に期待すること. 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋市
 8. 要伸也 . チーム医療で取り組む腎臓病. 第 49 回日本腎臓学会西部学術大会；2019 年；
 9. 新坂真広、原田拓也、藤田亜紀子、永井恵、金子修三、甲斐平康、森戸直記、臼井丈一、斎藤知栄、山縣邦弘 . 心外膜炎を合併した多発血管炎性肉芽腫症に対してリツキシマブを含む集学的治療が有効であった一例. 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2019；2018 年；名古屋
 10. 高橋真由美、臼井丈一、金子修三、杉山斉、新田孝作、和田隆志、武曾恵理、有村義宏、榎野博史、松尾清一、山縣邦弘 . RPGN 全国アンケート調査二次研究：年齢層別の生命・腎予後の検討. 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋
 11. 臼井丈一、山縣邦弘 . シンポジウム 8 血管炎に関する最新の話、急速進行性糸球体腎炎 RPGN 診療ガイドラインと今後の課題. 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋
 12. 河村哲也、金子修三、臼井丈一、山縣邦弘、佐久間亜季、岩淵聡、佐田憲映、榎野博史、松尾清一 . ANCA 関連血管炎に合併する貧血は腎病変の重症度と関連する ~ Remit-JAV-RPGN コホートより. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会；2019 年；横浜
 13. 影山美希子、岩瀬菜美子、荒川洋、植田敦志、斎藤知栄、臼井丈一、山縣邦弘 . SLE+Goodpasture 症候群合併の RPGN に対し、血漿交換療法+免疫抑制治療が奏効した一例. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会；2019 年；横浜
 14. 遠藤知美、横井秀基、森慶太、長尾早枝子、池田嘉宏、廣瀬潤子、金光祥臣、金子一成、阿部高明、塚本達雄、柳田素子 . 透析患者の母乳哺育の可能性 - 母乳内尿毒素と栄養素の解析 - . 第 54 回日本小児腎臓病学会学術集会；2019 年；大阪
 15. 遠藤知美、垣田浩子、遠藤修一郎、堤野みち、針谷正祥、塚本達雄、武曾恵理 . ANCA 関連血管炎における腎組織病変とサイトカインプロファイルの相関研究 RemIT-JAV-RPGN 二次研究. 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋
 16. 遠藤知美、横井秀基、森慶太、長尾早枝子、池田嘉宏、廣瀬潤子、金光祥臣、金子一成、阿部高明、塚本達雄、柳田素子 . 透析患者の母乳哺育の可能性 - 母乳内尿毒素と栄養素の解析 - . 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋
 17. Miyawaki Y, Sada K et al. The association between the dose of glucocorticoids and health-related quality of life in patients with systemic lupus erythematosus: a cross-sectional study. The 13th International Congress on Systemic Lupus Erythematosus (LUPUS 2019)；2019；San Francisco/USA
 18. Keiji Ohashi, Ken-ei Sada, Yosuke Asano, Keigo Hayashi, Yuriko Yamamura, Sumie Hiramatsu Asano, Michiko Morishita, Haruki Watanabe, Mariko Narazaki, Yoshinori Matsumoto, Tomoko Kawabata, Jun Wada, Masayoshi Harigai, Hirofumi Makino, on behalf of Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis Syndrome (JPVAS). Optimal initial dose of glucocorticoid for elderly-onset ANCA associated vasculitis: safety outcome analysis of two nationwide, prospective, inception cohort studies. 2019 EULAR 2019；；Madrid, Spain.
 19. Masayoshi Harigai, Aya Kawasaki, Naoyuki Tsuchiya, Ken-Ei Sada, Fumio Hirano, Takahiko Sugihara, Koichi Amano, Kunihiro Yamagata, Hiroaki Dobashi, Kenji Nagasaka, Tatsuya

- Atsumi, Seik-Soon Khor, Katsushi Tokunaga, Shoichi Ozaki, Seiichi Matsuo, Yoshihiro Arimura and Hirofumi Makino. Genome-wide Association Study in a Japanese Population Revealed Novel Candidate Genes for Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis. 2019 ACR/ARP Annual Meeting; 2019; Atlanta, GA.
20. Aya Kawasaki, Natsumi Namba, Ken-ei Sada, Fumio Hirano, Shigeto Kobayashi, Hidehiro Yamada, Hiroshi Furukawa, Kenji Nagasaka, Takahiko Sugihara, Aika Suzuki, Kunihiro Yamagata, Takayuki Sumida, Shigeto Tohma, Sakae Homma, Shoichi Ozaki, Hiroshi Hashimoto, Hirofumi Makino, Yoshihiro Arimura, Masayoshi Harigai and Naoyuki Tsuchiya. Association of TERT and DSP Polymorphisms with Susceptibility to Myeloperoxidase-ANCA-Associated Vasculitis. 2019 ACR/ARP Annual Meeting; 2019; Atlanta, GA.
21. Shinya Hirahara, Yasuhiro Katsumata, Ken-ei Sada, Hiroko Nagafuchi, Eiichi Tanaka and Masayoshi Harigai. Association of Work Productivity Assessed by Absenteeism and Presenteeism with Disease Activity, Damage and Health-related Quality of Life in Patients with ANCA-associated Vasculitis. 2019 ACR/ARP Annual Meeting; 2019; Atlanta, GA.
22. KAWASHIMA SOKO. Analysis of clinical features in ANCA-associated vasculitis treated with rituximab: a single center experience. The 19th International Vasculitis and ANCA Workshop 2019 PA ; 2019 ; Philadelphia
23. 川嶋聡子. 当院における ANCA 関連血管炎に対するリツキシマブ療法の現況. 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集
会 ; 2019 年 ; 京都
24. 川嶋聡子. 当院における過去 35 年の RPGN を呈した ANCA 関連血管炎の臨床像の検討. 第 62 回日本腎臓学会学術総会 ; 2019 年 ; 名古屋
25. 大矢昌樹, 重松隆. 日本における血液透析患者の服薬の実態. 第 64 回 日本透析医学会学術集会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
26. 根木茂雄, 大矢昌樹, 重松隆. 「AKI up date」AKI(急性腎障害)に対する血液浄化療法. 第 49 回 日本腎臓学会西部学術大会 ; 2019 年 ; 高知
27. 山本脩人, 大矢昌樹, 田中佑典, 矢野拓郎, 小林聡, 龍田浩一, 美馬亨, 根木茂雄, 重松隆, 雑賀保至, 刀禰佳典. 血液透析患者における栄養状態とその予後に関する検討. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
28. 龍田浩一, 山本脩人, 大矢昌樹, 重松隆. バスキュラーアクセス手術における内科医の限界はどこか?. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
29. 藤田寿実子, 楠原洋子, 大矢昌樹, 重松隆. 透析患者における低カリウム血症の危険性: 栄養面からのアプローチ. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
30. 美馬亨, 屋代充, 大矢昌樹, 重松隆. 透析患者末梢血リンパ球の Klotho 発現低下と感染症リスクについて. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
31. 園生智広, 大矢昌樹, 重松隆. 高リン条件下での筋萎縮因子発現の検討. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会 ; 2019 年 ; 横浜
32. 加藤 貴久, 尾田 高志, 井上 暖, 岩間 佐智子, 木原 優, 今野 理, 岩本 整. 第 53 回 日本臨床腎移植学会 ; 2020 年 ; 東京
33. 岩本 整, 沖原 正章, 赤司 勲, 木原 優, 山田 宗治, 尾田 高志, 今野 理.

- 第 53 回 日本臨床腎移植学会； 2020 年；東京
34. 虎石 竜典，大山 勝宏，竹内 裕紀，平川 圭史，堀 祐輔，沖原 正章，赤司 勲，横山 卓剛，木原 優，今野 理，中村 有紀，河地 茂行，尾田 高志，岩本 整．日米の医薬品副作用データベースを用いたエベロリムスの蛋白尿発現時期の検討．日本移植学会総会； 2019 年；広島
 35. 竹内 裕紀(東京薬科大学)，瀬沼 和己，前原 陸哉，沖原 正章，横山 卓剛，赤司 勲，木原 優，今野 理，中村 有紀，虎石 竜典，平野 俊彦，畝崎 榮，河地 茂行，尾田 高志，岩本 整．PK/PD 解析に基づく腎移植初期から維持期における併用療法免疫抑制力の推移．日本移植学会総会；2019 年；広島
 36. 足立 大也，小牧 和美，塩津 弥生，浦田 倫子，原 将之，中山 雅由花，草場 哲郎，益澤 尚子，小西 英一，尾田 高志，玉垣 圭一．感染の関与が示唆された ANCA 陰性顕微鏡的多発血管炎の 1 例．第 49 回日本腎臓学会西部会； 2019 年年；高知
 37. 坂下 祥太，池上 怜花，小林 伸暉，正田 若菜，久山 環，尾田 高志，安藤 亮一．溶連菌感染後急性糸球体腎炎との鑑別が問題となるも IgA 血管炎と診断した一例．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 38. 小松 秀平，酒井 敬史，小島 亜希，大島 泰斗，小島 糾，杉崎 健太郎，富安 朋宏，山田 宗治，吉川 憲子，尾田 高志．鎖と鎖が共に陽性の PGNMID の 1 例．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 39. 酒井 敬史，山田 宗治，小島 亜希，小松 秀平，大島 泰斗，小島 糾，杉崎 健太郎，富安 朋宏，吉川 憲子，尾田 高志．典型的な電顕所見を示す IV 型コラーゲン 5 鎖(COL4A5)染色陽性の男性アルポート症候群 2 症例．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 40. 武政 洋一，藤永 周一郎，遠藤 翔太，梅田 千里，西野 智彦，渡邊 佳孝，仲川 真由，尾田 高志．マイコプラズマ肺炎を合併した重症感染後糸球体腎炎の 6 歳男児．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 41. 井上 暖，廣瀬 剛，杉崎 健太郎，山田 宗治，吉川 憲子，尾田 高志．溶連菌感染後急性糸球体腎炎(PSAGN)に直接クームス試験一過性陽性化を伴う血栓性微小血管症(TMA)を合併した一例．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 42. 尾田 高志．溶連菌感染後急性糸球体腎炎．第 49 回日本腎臓学会東部会； 2019 年；東京
 43. 尾田 高志，井上 暖，酒井 敬史，小島 亜希，木原 優，今野 理，山田 宗治，吉川 憲子，岩本 整．腎移植患者におけるヒトパルボウイルス B19(HPVB19)遷延感染の 2 症例．第 64 回日本透析医学会総会； 2019 年；横浜
 44. 吉川 憲子，小島 糾，廣瀬 剛，小松 秀平，大島 泰斗，小島 亜紀，山田 宗治，尾田 高志，進藤 俊哉．当院における下肢末梢動脈疾患(PAD)紹介患者の変動．第 64 回日本透析医学会総会； 2019 年；横浜
 45. 菅野 靖司，角田 隆俊，小俣 百代，山川 弘，佐藤 雄一，齋藤 毅，吉川 憲子，尾田 高志．Dialysis-Net 802(八王子医療圏透析連携の会)ホームページ制作．第 64 回日本透析医学

- 会総会； 2019年；横浜
46. 花房 規男, 菊地 勘, 川崎 路浩, 酒井 謙, 杉崎 弘章, 小川 哲也, 尾田 高志, 要 伸也, 田島 真人, 本田 浩一, 大坪 茂, 岡本 裕美, 安部 貴之, 今井 早良, 上田 聰美, 松田 由美子, 吉盛 友子, 安藤 亮一. 東京都の災害対策医療の現状 東京都透析医会災害対策委員会の取り組み. 第 64 回日本透析医学会総会； 2019年；横浜
 47. 尾田 高志, 岩間 さち子, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 吉川 憲子, 山田 宗治, 吉澤 信行, 浅野 貴子, 熊谷 裕生. NAPIr 陽性腎炎の最終診断名および臨床・組織学的特徴. 第 62 回 日本腎臓学会総会 2019年；名古屋
 48. 山田 宗治, 酒井 敬史, 小島 亜希, 井上 暖, 小松 秀平, 大島 泰斗, 廣瀬 剛, 小島 糾, 杉崎 健太郎, 富安 朋宏, 吉川 憲子, 尾田 高志. ラット線維芽細胞における epimorphin の線維化保護作用. 第 62 回 日本腎臓学会総会； 2019年；名古屋
 49. 松村 千恵子, 菅谷 雅人, 升田 真依, 小林 雅代, 鶴野 裕一, 金本 勝義, 北村 博司, 澤井 俊宏, 奥田 雄介, 才田 謙, 野津 寛大, 尾田 高志. 溶連菌感染契機に発症し、ステロイド剤とタクロリムス併用が著効を呈した C3NeF 陽性 C3 腎炎の 1 例. 第 54 回 日本小児腎臓学会； 2019年；大阪
 50. 加勢田 幸子, 平橋 淳一, 藤島 清太郎. 急激なダイエットにより誘発されたと考えられたキライディティ症候群の一例. 第20回 日本病院総合診療医学会 学術総会； 2020年；福岡
 51. 荒木 李香, 藤島 清太郎, 平橋 淳一, 新井 康通, 安藤 崇之, 加勢田 幸子 遷延性の白血球減少とLDH高値を認めた菊池病の1例 第20回 日本病院総合診療医学会 学術総会； 2020年；福岡
 52. 加勢田 幸子, 平橋 淳一, 藤島 清太郎. 繰り返す一過性視野欠損から眼動脈攣縮を疑い、ペニジピンが奏功した一例. 第20回 日本病院総合診療医学会 学術総会； 2020年；福岡
 53. 山崎 修, 山下 真帆, 李 金萍, 本間 文佳, 吉田 理, 平橋 淳一, 林 松彦, 柴田 茂. ナトリウム重炭酸共輸送体 NBCe1 の新規変異体 I551F は cytosolic retention および機能低下を示す. 日本高血圧学会； 2019年；東京
 54. 高杉 望, 平橋 淳一, 新井 康通, 藤島 清太郎. 発熱、頭痛と顎跛行を認め、高度の炎症反応から感染症との鑑別を要した巨細胞性動脈炎の一例. 日本病院総合診療学会； 2019年；沖縄
 55. 平橋 淳一, 黒澤 美穂, 大久保. 光修糖尿病では急性期傷害関連タンパク Histone1 に対する白血球の炎症免疫応答が亢進している. 第62回日本腎臓学会学術総会； 2019年；名古屋
 56. 平橋 淳一, 宮内 宏彰, 有田 誠, 中久木 正則, 河野 浩之, 大久保 光修. エイコサペンタエン酸・アスピリン併用による慢性腎炎進行抑制メカニズムの探求. 第64回日本透析医学会学術総会； 2019年；横浜
 57. 平橋 淳一. 糖尿病における心血管病への脆弱性を白血球の急性期タンパクヒストンへの反応性から解析する. 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会； 2019年；高松
 58. 平橋 淳一, 新井康通, 藤島清太郎. 変動性の下腹部痛を認め、造影CTによる特徴的所見から骨盤内うっ血症候群が疑われた1例. 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会； 2019年；高松
 59. 平橋 淳一. 炎症急性期タンパク Histone1 に対する感受性と Thromboinflammation 口演. 第25回 MPO研究会； 2019年；東京

60. 平橋 淳一. Macrophage Extracellular Traps (METs): A new molecular mechanism for rhabdomyolysis-induced acute kidney injury. 第36回国際心臓研究学会日本部会 CVMW/心血管代謝週間 シンポジウム; 2019年; 神戸
61. 北川清樹, 加治貴彰, 迫恵輔, 和田隆志. 急速進行性糸球体腎炎を併発した ANCA 関連腎炎の臨床病理所見および予後の変遷. 第 73 回国立病院総合医学会; 2019 年; 名古屋市
62. 北川清樹, 加治貴彰, 迫恵輔, 坂井宣彦, 和田隆志. ANCA 関連血管炎に対するアフェレシス療法. 第 38 回日本アフェレシス学会関西地方会; 2020 年; 和歌山市
63. Oishi Y, Hiromura K, et al. Pregnancy Outcomes in Patients with Systemic Lupus Erythematosus with or Without Lupus Nephritis. American Society of Nephrology, Annual Meeting; 2019; Washington DC, USA
64. Ikeuchi H, Hiromura K, et al. Risk Factors for Poor Long-Term Renal Outcome and Death in Lupus Nephritis: Analysis on a Nationwide Cohort Study in Japan, American Society of Nephrology, Annual Meeting; 2019; Washington DC, USA
65. Ikeuchi H, Hiromura K, et al. The Level of Proteinuria after 6 and 12 months of Treatment Predicts Long-Term Renal outcomes in Lupus Nephritis: Data from a Nationwide Cohort Study in Japan. American Society of Nephrology, Annual Meeting; 2019; Washington DC, USA
66. Kajiyama H, Hiromura K, et al. Association of the cumulative urinary podocyte number and urinary podocalyxin with long-term renal prognosis in lupus nephritis. American College of Rheumatology, Annual Meeting; 2019; Atlanta, USA
67. 武井克仁, 廣村桂樹, 他. 当教室において初回ならびに再生検を施行したループス腎炎 21 例の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会; 2019; 京都
68. 廣村桂樹, 池内秀和. ループス腎炎: 病態研究と臨床の最前線 ループス腎炎の寛解導入 わが国の全国調査も含めて. 日本腎臓学会学術集会; 2019; 名古屋.
69. 池内秀和, 廣村桂樹, 他. J-RBR ループス腎炎二次研究 死亡と合併症に関する解析 日本腎臓学会学術集会; 2019; 名古屋
70. 池内秀和, 廣村桂樹, 他. J-RBR ループス腎炎二次研究 腎生検時データによる腎予後不良のリスク因子の解析. 日本腎臓学会学術集会; 2019; 名古屋
71. 池内秀和, 廣村桂樹, 他. J-RBR ループス腎炎二次研究 治療後尿蛋白量による長期腎予後の予測. 日本腎臓学会学術集会; 2019; 名古屋.
72. 廣村桂樹. ループス腎炎: わが国の診療実態と今後の展望. 日本腎臓学会総会サテライトシンポジウム; 2019; 甲府.
73. 小川真一郎, 廣村桂樹, 他. 中枢性尿崩症の経過中に半月体形成性糸球体腎炎を発症した一例. 日本腎臓学会東部学術集会; 2019; 東京.
74. 廣村桂樹. ループス腎炎の病態と最新の治療. 日本腎臓学会西部学術集会; 2019; 高知.
75. 廣村桂樹. ループス腎炎診療アップデート. 日本腎臓学会西部学術集会; 2019; 高知.
76. Ohya M. Vascular Calcification in CKD-MBD patients. Asia-Pacific AKI to/on CKD summit, 2019 Annual Meeting of Taiwan Society of Nephrology; Taipei, Taiwan; 2019
77. 大矢昌樹. CKD-MBD の基礎と新たな概念. 第 64 回 日本透析医学会学術大会・総会; 2019 年; 横浜
78. 大矢昌樹. 「学生・研修医のための教育セミナー」. 第 49 回 日本腎臓学会西部学術大会; 2019 年; 高知

79. Ozeki T, Kato S, Yasuda Y, Maruyama S. The Incidence and Timing of Infectious Complications Relating to Immunosuppressive Treatment Among Adult Japanese Minimal Change Disease and Focal Segmental Glomerulosclerosis: A Retrospective Study. ASN Kidney Week 2019; 2019; Washington DC.
80. Ozeki T, Ishimoto T, Kato S, Yasuda Y, Maruyama S. The levels of plasma suPAR may not associate with poor-therapeutic reactivity among adult Japanese patients with focal segmental glomerulosclerosis and minimal change disease. ASN Kidney Week 2019; 2019; Washington DC.
81. Ozeki T, Kato S, Yasuda Y, Maruyama S. The incidence and timing of infectious complication relating to immunosuppressive treatment among adult Japanese minimal change disease/focal segmental glomerulosclerosis. 第 62 回日本腎臓学会総会; 2019; 名古屋.
82. Ozeki T, Ishimoto T, Kato S, Yasuda Y, Maruyama S. The levels of plasma suPAR may discriminate the patients with focal segmental glomerulosclerosis from those with minimal change disease but not the patients with poor therapeutic reactivity. 第 62 回日本腎臓学会総会; 2019; 名古屋.
83. Sayuri Shirai, Yasuda Takashi, Hiroo Kumagai, Hanako Matsunobu, Daisuke Ichikawa, Yugo Shibagaki, Yoshinari Yasuda, Tetsuya Kawamura, Yusuke Suzuki, Shoichi Maruyama. Examination of the factor related to the prognosis in IgA nephropathy patients with mild proteinuria at diagnosis. ASN, 2019, Washington
84. Takehiko Kawaguchi, Toshiyuki Imasawa, Moritoshi Kadomura, Hiroshi Kitamura, Shoichi Maruyama, Takaya Ozeki, Ritsuko Katafuchi, Kazumasa Oka, Yoshitaka Isaka, Hitoshi Yokoyama, Hitoshi Sugiyama, Hiroshi Sato. Association between Histologic Variants of Focal Segmental Glomerulonephrosis and Outcomes: Results from Japan Renal Biopsy Registry. ASN Kidney Week 2019; 2019; Washington DC, USA.
85. Takehiko Kawaguchi, Tasuku Nagasawsa, Kazuhiko Tsuruya, Kenichiro Miura, Takayuki Katsuno, Takashi Morikawa, Eiji Ishikawa, Masao Ogura, Hideki Matsumura, Ryota Kurayama, Sinsuke Matsumoto, Yuji Marui, Shigeo Hara, Shoichi Maruyama, Ichiei Narita, Hirokazu Okada, Yoshifumi Ubara, Kidney Biopsy Guidebook Working Group. ERA-EDTA congress 2019; 2019; Budapest, Hungary.
86. Nakanishi K: IgA Nephropathy and Henoch-Schonlin Purpura Nephropathy. Treatment of IgAN and HSP nephritis. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association; 2019; Venice, Italy
87. Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Tanaka Y, Wada T, Mukaiyama H, Sato M, Nozu K, Kaito H, Tanaka R, Suzuki H, Iijima K, Yoshikawa N: Factors related to proteinuria relapse in childhood IgA nephropathy. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association; 2019; Venice, Italy
88. Ichikawa D: Spontaneous Remission in Asian Patients with IgA Nephropathy Treated with Conservative Therapy. 52th Annual Meeting of American Society of Nephrology; 2019; Washington DC, USA
89. 島友子, 中西浩一, 濱武継, 向山弘展, 佐藤匡, 田中侑, 鈴木啓之, 吉川徳茂. 重症型小児 IgA 腎症に対するプレドニゾロン+ミゾリピン+RA 阻害薬 3 剤による多剤併用療法の有効性の検討. 第 54 回日本小児腎臓病学会学術集会; 2019; 大阪

90. 藤元昭一：IgA 腎症の移行期医療（内科医の立場から）「小児-成人移行期医療」（シンポジウム）第 49 回日本腎臓学会西部学術大会；2019；高知

91. 佐藤陽隆，市川大介，渡邊詩香，小波津香織，柴垣有吾：軽度から中等度蛋白尿を伴う IgA 腎症の自然寛解 .第 62 回日本腎臓学会；2019；名古屋

92. 片淵律子，永江洋，升谷耕介，中野敏昭，鶴屋和彦，満生浩司：IgA 腎症における軽鎖沈着の偏りに関する臨床病理学的検討 . 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋

93. 関根章成、星野純一、藤丸拓也、諏訪部達也、森崇寧、蘇原映誠、内田信一、澤直樹、高市憲明、乳原善文 . 家族歴の明らかでない PKD における遺伝子変異と腎予後 . 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋

94. 関根章成、星野純一、澤直樹、高市憲明、乳原善文 . ARPKD & ネフロン癆(シンポジウム) . 第 49 回日本腎臓学会東部学術大会；2019 年；東京

95. 石川 英二 . 診療ガイドラインに強くなる . 作成方法を理解して信頼できる診療ガイドラインを活用しよう . 第 62 回日本腎臓学会学術総会 . ；2019 年；名古屋 .

96. 山本準也、西尾妙織、楠加奈子、武田紗夜、中沢大悟、渥美達也 . 常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタンの長期成績；第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋

97. 中西 浩一 . 常染色体劣性多発性嚢胞腎 (ARPKD) . 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋

98. 西尾妙織 . ADPKD：嚢胞形成と cilia . 第 62 回日本腎臓学会学術総会；2019 年；名古屋

99. Yamamoto J, Nishio S, Kusunoki K, Takeda S, Nakazawa D, Atsumi T. Long-term treatment of tolvaptan for autosomal dominant polycystic kidney disease: a single center retrospective cohort study, The 56th ERA-EDTA Congress ; 2019 ; Budapest, Hungary

100. Takeda S, Nishio S, Kimura T, Yamamoto J, Nakazawa D, Sakurai H, Atsumi

T. The effect of L-type amino acid transporter 1 in the cyst formation of model mice for polycystic kidney disease, The 56th ERA-EDTA Congress ; 2019 ; Budapest, Hungary

101. Nishio S. Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: Translating Mechanisms into Therapy . APSN Continuing medical Education (CME) Course in JAPAN ; 2019 ; Nagoya, Japan

H . 知的財産権の出願・登録状況

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし